

**B.A. (Honours) Examination, 2018**  
**Semester-VI**  
**Japanese**  
**Paper – JP 14 (H14)**  
**(Introduction to Japanese Literature)**

**Time- Three Hours**

**Full Marks- 40**

**Questions are of value as indicated in the margin.**

**問題 I** 以下の古文を現代語にしなさい。

**4x2=8**

ア) 思ふらむ

人にあらなくに

ねもころに

情尽して

恋ふるわれかも

イ) 秋の田の

穂の上に霧らふ

かすみ  
朝霞

何処辺の方に

わが恋ひ止まむ

**問題 II** 下記の古文を読んで自分の言葉で説明しなさい。

**8x3=24**

ア) わが屋前に、花そ咲きたる、そを見れど、情も行かず、愛しきやし、妹がありせば、水鴨なす、二人並びみ、手折りても、見せましものを うつせみの、借れる身なれば、露霜の、消ぬるがごとく、あしひきの 山道を指して、入日なす、隠りにしかば、そこ思ふに、胸こそ痛き 言ひも得ず、名つけも知らず、跡もなき、世間にあれば、せむすべも無し

大伴宿禰家持

ウ) 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。その年の十二月の二十日あまり一日の日の戌の時に、門出す。そのよし、いささかにものに書きつく。

ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、船に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知ら

ぬ、送りす。年ごろ、よくくらべつる人々なむ、別れ難く思ひて、日しきりにとかくしつつ、ののしるうちに、夜更けぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。藤原のときざね、船路なれど、馬のはなむけす。上中下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにて、あざれ合へり。

紀貫之

エ) ありがたきもの。舅にほめらるる婿。また、姑に思はるる嫁の君。毛のよく抜くる銀の毛抜。主そしらぬ従者。つゆのくせなき。かたち心ありさますぐれ、世にふる程、いささかの疵なき。

同じ所に住む人の、かたみに恥ぢかはし、いささかのひまなく用意したりと思ふが、つひに見えぬこそかたけれ。物語、集など書き写すに、本に墨つけぬ。よき草子などはいみじう心して書けど、必ずこそ汚げになるめれ。

男女をば言はじ、女ども、契り深くて語らふ人の、末までなかよき人、難し。

清少納言

問題 III 次の質問に答えなさい。

(1 x 8 = 8)

- ア) 源氏物語はいつ書かれたのか
- イ) 方丈記の著者は誰ですか。
- ウ) 竹取物語の主人公の名前は何ですか。
- エ) 古事記は誰の命令によって書かれたのですか。
- オ) 今まで残っている一つの風土記の名前を挙げなさい。
- カ) 歌物語の名前を一つ書きなさい。
- キ) 徒然草の著者は誰ですか。
- ク) 風土記に出ている情報として挙げられるものを二つ述べなさい。

\*\*\*\*\*